

令和4年度 第1回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 令和4年7月27日(水) 午後2時00分～午後3時40分
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 12名

○館出席者 7名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会
運営委員 2名

【議 事】(1) 指定管理方針

(2) 令和3年度事業報告

- ア 展覧会事業
- イ 芸術・教育普及事業
- ウ 施設の利用状況
- エ 作品収集状況

(3) 令和4年度事業計画

- ア 展覧会概要及びスケジュール
- イ 芸術・教育普及事業・施設維持管理業務

(4) その他

1. 開 会

館長より、令和4年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催する旨の挨拶。

2. 挨 拶

運営委員長代理が、新たな指定管理期間の最初の協議会であるため、釧路芸術館共同事業体として心機一転、運営を行っていきたいと述べ、本日も忌憚なきご意見を伺いたい旨の挨拶を行った。

3. 委員及び館職員の紹介と協議会成立について

館長が委員と館職員等の紹介を行い、令和4年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、新型コロナウイルス感染予防のために時間を出来るだけ短縮したい旨を説明、次に委員数15名中過半数の12名が出席となり、運営協議会規則第7条2項により本協議会が成立する旨を宣言した。

4. 会長と副会長の選出

出席委員の互選により、会長と副会長が選出された。

5. 議 事

(1) 指定管理方針について

運営委員長代理より、以下の4項目の説明がされた。

- ① 釧路・根室地域の特色を踏まえた新たな取り組みを積極的に行っていく。
- ② 関係団体と連携して道外からの観光客を相互に呼び込む活動を行っていく。
- ③ SNSによる釧路芸術館の魅力発信の強化
- ④ 学芸員や道担当者との連携を強化し、定期的な意見交換を行いながら、館の円滑な運営を行っていく。

運営委員より、照明のLED化を中心とした経費の削減や老朽化した設備機器の早急な更新を進めて行きたい旨の説明がされた。

(2) 令和3年度 事業報告

館長より、展覧会事業の観覧者数や観覧料収入、事業費支出状況について報告。

次に、学芸主幹が各展覧会の関連事業等を報告。安野モヨコ展から新たな試みとして行った、地域の飲食店等との相互割引制度である「もも得」についても説明した。さらに、アートホールで開催した「大人の寺子屋一びじゅつの時間 2022」の3講座にも触れ、常設展示がないことをカバーするために、今後もワークショップにおいて所蔵品を活用していくことを説明した。

次に、館長が教育普及事業や貸館事業の報告を行い、指定管理者として行う自主事業については、2年連続で無観客開催となったクリスマスコンサートの収録DVDを福祉施設へ配布したことに関してや、当館アテンダントスタッフが作品解説をする「一点トーク」についても言及した。

最後に、学芸主幹が木島誠悟氏の絵本原画を新たに収蔵したこと、毛綱毅曠氏の建築設計図について寄託を受けたことを報告した後、館長が「管理の目標達成度評価調書」について、様々な指標を基に北海道教育委員会から「AA（十分に達成水準を満たしている）」の評価を受けたことを説明した。

会長 令和3年度事業についてご報告いただきましたが、委員の皆様から感想やご意見はございますでしょうか。

委員 委員を2年務めさせていただいていますが、どういう視点で意見を述べればよいのかわからなくなっていました。

展覧会観覧者数を見ると目標の半分程度でなかなか厳しい状況にある一方で、管理の目標達成度では良い評価を受けています。

委員としては、観覧者数をいかに増やすかの施策を提言すべきなのか、それとも地域の文化創造ですとか住民の方々にいかに親んでもらえるかを考えるべきなのか、その点につきましてお聞かせ願えますか。

学芸主幹

当館は、社会教育施設であり生涯学習施設です。就学前のお子さんから年配の方まで、幅広い世代の人々にアートを通して満足していただく、豊かな心の働きを経験していただくというのが大きな目的だと考えております。

したがって、入館者数だけではなく、所蔵品をどれくらい活用しているか、地域とどの程度連携しているのかなどをはじめとする多様な指標で評価していただくのが一番適切なのではと思っております。

入館者数という数字はわかりやすいので、それが独り歩きしてしまうというのは往々にしてあるのですが、運営協議会では、どう工夫をしてお客様に満足していただきましたということをお話しして、委員の皆様には地域において、「釧路芸術館はこういう形で地域に貢献しているよ」とお伝えしていただくとありがたく存じます。地道な活動ですけれども、社会教育施設としての多様な役割を万遍なく底上げしようとしているところをご覧いただければありがたいと思います。

新たな5年間の指定管理期間の始まりにあたりまして、コロナ前の数字にこだわって入館者数が少ないと嘆くのではなく、ポストコロナ時代を踏まえた堅実な目標を掲げてそれを目指しつつ、入館者数以外の地域貢献やコレクションの活用などにも力を注ぎ、釧路芸術館のこういう所が素晴らしいということを、委員の皆様はもちろん、利用する方々に体感して評価していただくというようになっていけばと考えております。

委員

過去2年間の運営協議会では入館者数が深刻だけれどもなかなか増やすのが難しいのかなと思っていましたが、観光客をどう取り込むか、SNSを使ってどう増やすかということも大事だけれども、それらは一要素であって、社会教育施設として幅広い年代の方々に文化に親んでもらうということの方が大事ということですね。

学芸主幹

入館者数も大事、教育普及事業に参加していただく人数も大事、

それから各展覧会のお客様がアンケートで書いてくださる内容も大事ということで、入館者数だけが指標ではないということをお願いしたいと思っております。

先程館長や運営委員代理の柴田さんからもお話がありました通り、修学旅行客を取り込むにはどうしたらよいか、この2年間地道に積み上げてきた地域連携をどう評価するか、それからファミリー向けの事業をどう評価するか等々、多様な指標で評価していただくとありがたいと思っております。

委員 指定管理者の方々も同じ方針ということでよろしいですか。

運営委員長代理 はい。

会長 本協議会は委員の皆さんにそれぞれのお立場から、釧路美術館の運営についてご意見をいただくという、そういったスタンスかと思っております。

一方で釧路美術館は指定管理施設として、予算を指定管理者に預けて運営していただくという形を取っていますから、運営そのものの問題、展覧会や教育普及事業の質の問題と同時に、数の問題いわゆる指定管理者の経営的な問題も問われてくるという二重の条件を持っているということです。

先程館長にご説明いただいた管理の目標達成度評価調査というのは、まさにこの指定管理者としての評価、つまり指定期間にどれだけの評価が得られたかということを示しているにご理解いただければと思います。

では、令和3年度事業報告について他にご意見はございますか。もしすぐにご意見やご質問がお出にならないようであれば、令和4年度の事業計画をご説明いただいてから、改めて委員の皆様は昨年度今年度を通してご発言いただく形を取りたいと思っております。

(2) 令和4年度 事業計画

館長より令和4年度の現時点での展覧会の観覧者数報告があり、次に学芸主幹が各展覧会について関連事業も含めて説明を行った。今年度より周辺の学校や幼稚園に、社会科見学や遠足等で当館を利用いただくようお声掛けをしたこと、9月からの「厚岸・国泰寺の200年」展では、当館以外に国泰寺や厚岸町郷土館、厚岸町海事記念館を巡るバスツアーを開催することについても説明があった。

委員 私は厚岸在住ですが、地元でもなかなか国泰寺の文化財を観る機会がないものですから、周りに宣伝しております。

 バスツアーは毛綱毅曠展の時にもされたと思いますが、ユニークな企画ですので、是非続けていただきたいです。

委員 4月から開催した「日本の洋画 130 年」展は、「教科書に載っている画家たちによる名品展」だという説明がありましたが、教科書に載っている作品を観たいというのが正直な気持ちです。小学校も中学校も同様ですが、総合学習等のスケジュールは非常にタイトな状況ですので、移動時間も考慮すると各施設への滞在時間は短くなってしまいます。ですから、それを踏まえて鑑賞に堪えうる作品を鑑賞する機会を設けていただければと思います。

 事業計画で様々な展覧会やイベントをご説明くださいましたので、校長会の場でも宣伝させていただきたいと考えております。

会長 先程新型コロナウイルス感染症対応のお話がありましたが、道立近代美術館や他の道立美術館含めてどのような状況かをお話いただけますか。

委員 昨年度は釧路芸術館と同様に北海道教育委員会の考えに基づき、他の道立館も春の時期に臨時休館とした期間がございましたが、現在は社会的状況も踏まえ、基本的な感染予防対策をとりながら開館しているという状況です。

 道立近代美術館では、先月まで UHB と北海道新聞社が中心となって開催しておりました「フェルメールと 17 世紀オランダ絵画展」が当初の観覧者の動きを見ていると 7、8 万人で終わるかと思われていましたが、ゴールデンウィーク明けぐらいから急に観覧者数が増え始めて、結果として 10 万人を超えましたが、感染源にならないかと逆に不安になったということがございました。

 教育普及事業についてですが、たくさんの回数を、そして多様なことを行うというのはお客様からの視点で見れば、不平不満をおっしゃる方は誰もいないですし、評価につながるのだと思います。

 一方で、私が若い頃に先輩の学芸員から言われたのが、「30 分人前で話すんだったら、1 週間しっかり勉強しなければだめだ」ということで、お客様の前ではわずか 30 分かもしれないけれども、実際に責任をもって人前で話せるようになるまでには必ず時間があるということでもあります。そう考えますと、際限の無い教育普及活動

がもし求められるとすると、それは非常に学芸員が消耗していつて、結果的に色々なことが長続きしないということになってしまうのではと、日々仕事をしながら、そして周りを見ながら感じております。

学校教育の場合は到達目標がはっきりしていますが、社会教育の場合、その辺が比較的曖昧なところがあるので、参加者数やアンケートの反応でしか到達が見えないということがあるために、ついつい回数を増やしたくなるということがあります。先程申しましたが、教育普及事業にもある程度準備が必要ですので、先の報告を受けまして釧路美術館さん頑張っているなと思いました。

会長 教育普及事業のクオリティの維持ということと、学芸員の労力を考えたバランスが求められるということです。

社会教育というお話しが出ましたけれども、そうした点で釧路美術館に期待されるのはどんなことだとお考えですか。

委員 道大会や管内の大会で研修に参加しているのですが、社会教育というのは幅広くて、一般の研修よりも自主研修ということが恵庭市やサロマ町などで盛んに行われていますが、人づくりやまちづくりについて全道を通して真剣に取り組まれているなと思います。

それから、社会教育の面で美術館への関心も高まっていると感じます。

(3) その他

館長が、「令和4年度からの新たな取り組み」について、以下5点の説明を行った。

1. 当館主催事業参加者に団体割引券を配布（当日限り有効）
毎月のアートシネマ館や次回展関連の「厚岸かぐら」などで配布する。
2. 道立美術館5館で行っている相互リピーター割引制度を当館でも導入
北海道教育委員会の了解と他館の賛同が得られたので8月1日から実施する。
3. QRコード読み取りで、スマホで簡単にアンケートに回答できるようにした。
当館へのアンケートのご意見に応えたもの。
4. アートホール収容人数制限を見直し、一定の条件のもとに従来の100席まで→150席まで可能にした。
5. 釧路観光コンベンション協会との連携
同協会の修学旅行生誘致のパンフレットに当館の紹介ページを掲載いただいた。

また、ホームページやSNSの利用状況についても説明を行った。

会長

リピーター割引についてですが、直営館が出来ていたことが今まで出来なかったということに少し驚いていますが、利用者からすると、利用する館が直営であろうが指定管理であろうが全く関係のない話でありまして、運営上の障害が撤廃されて今回実現されたというのは非常に喜ばしいことです。もし他の点でも直営館と同様に利用できないということがあれば、是非実現に向けて検討していただきたいと思います。

また、ホームページや SNS ですが、新聞やテレビをあまり見ない層、今まで釧路芸術館を利用してこなかった層の方々にも情報提供を行える場として、引き続き活用していただければと思います。

それから、市営錦町駐車場の件についても、利用者数や人口動態の変化といったもののリサーチ、それから根回しを行った上で、都市計画や公立施設の効率的な使い方という観点も含めて市と粘り強く交渉していただきたいです。それらのことを釧路芸術館の現場スタッフだけで行うのは疲弊してしまいますので、指定管理会社さんの方でも力を入れていただきたいと考えております。

館長

リピーター割引については、当館へのアンケートに「同じ道立なのに他の美術館の半券を見せても割引にならないのはなぜか」というご意見をいただいて、これはご指摘の通りだと感じましたので、北海道教育委員会とご相談しました。その際、釧路芸術館は指定管理施設ですので、利用料金収入を上げるという目的が一方であるわけですが、そうした中リピーター割引を導入するというはその分収入が減りますけれどもいいのですかというお話がありました。

確かにその分収入は若干減りますが、それ以上に、他館と共通に出来るはずのことをしていないということの方が、むしろマイナスになるのではないかと考え、利用者サービスの向上を優先すべきと判断して導入を決めたところです。

錦町駐車場の無料時間の延長につきましては、文書の提出をもって要請を行いましても、それだけではなかなか望み通りにはいきませんので、具体的な数字等に基づいた当方からの提案なども行いながら、要請を行っていきたいと考えております。

館長より次回の運営協議会は令和5年2月に予定していること、本協議会で提供されているコーヒーは釧路芸術館ボランティアの会 SOA が運営しているミュージアムカフェによるものであることの説明があった。

運営委員長代理より、本協議会でいただいた貴重なご意見を基に、駐車場の問題も含

めて、共同事業体で協力して実現に向けて努力していきたい旨の挨拶があった。

全ての議事が終了したため、令和4年度第1回北海道立釧路芸術館運営協議会は閉会となった。